下野市地域公共交通計画の評価等結果(令和5年4月~6年3月)

| 目標 | 目標を達成するための取組 (計画に定めた事業内容) | 調査方法 | 達成状況·分析 (令和6年3月末実績見込) | 評価・次年度に向けた課題や取組 | 備考 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|
| 【目標1】 ・デマンド交通登録者数: 3,757人(令和元年度)→4,000人(令和7年度) ・デマンド交通利用者数: 22,703人/年(令和元年度)→22,500人/年(令和7年度) ・レンタサイクル利用者数: 1,614人/年(令和元年度)→1,930人/年(令和7年度) | ICTやAIを活用したデマンド交通の予約システムや支払方法の導入検討 自転車利用者に対する利用促進策の検討 観光レンタサイクル事業における利便性向上や市民が日常の移動手段として利用できるような仕組みの検討 | 市保有の利用登録者名簿デマンド委託事業者から 提供される乗降データ観光協会保有の利用者数 データ | ・デマンド登録者数: 5,900人(うち市外970人) ・デマンド利用者数:17,900人(うち市外270人) ・レンタサイクル利用者数:1,600人 令和4年4月に1市2町デマンド交通相互利用の本格運行を開始し登録者数は毎年増加しているが、利用者数が令和4年度実績(19,329人)より減少している。 令和5年度から「おでかけ号通信」を発行しデマンド車内に掲示し利用方法等の周知を行った。(年2回発行) レンタサイクルについては、昨年度に引き続き市内食べ歩き企画などを実施することで、観光自転車等の利用促進が図ることができたため、利用者数は令和4年度とほぼ同数となった。 | 利用者の利便性と満足度の向上を図るため改善と工夫が必要となる。 「おでかけ号通信」を定期的に発行し、おでかけ号の現状や利用方法の周知を行う。 レンタサイクルの利用促進については、下野市観光協会と連携し周知方法などを検討する。 | |
| 【目標2】 ・公共交通マップ配布箇所数: 新規事業→10カ所(令和7年度) | ・公共交通の利用方法や時刻表を掲載した公共交通マップの作成と配布・地域ふれあいサロン等での広報資料の配布 | • 作成、配布実績 | 下野市交通機関時刻表として、広域連携バス時刻表・デマンド 交通利用方法を新聞折り込みチラシで配布した。 | ページ情報と配布物の更新を行い、市内各施設にて配布し市内の公共交通の周知を図る。 | |
| 【目標3】 ・居住誘導区域及び郊外型居住区域の人口密度: 46.1/ha(平成27年度)→46.4/ha (令和7年度) | 移住定住を促す交通網形成のため、デマンド交通運行エリアの一体化を検討 鉄道交通、路線バス、デマンド交通のシームレス化の検討 タクシーを公共交通として位置付け | • 事業実績、国勢調査 | (毎年度数値目標検証除外項目) デマンド交通は旧行政区域ごと3つに分けて運行していたエリアを一体化し乗継の不便さを解消した。併せて導入したリアルタイム配車システムにより、鉄道・路線バスとのシームレス化に努めた。また、利用時間や目的に応じた公共交通の使い分けとしてタクシーの活用も促した。 | 居住エリアと拠点施設等を結ぶネットワークを形成し、引き続き立地適正化計画と連携し、居住誘導区域への人口誘導を図 | 数値目標について、5年に1 度の国勢調査に基づく指標の ため、毎年度は検証しない。 (次回調査令和7年度) |
| 【目標4】 ・モビリティマネジメントの実施回数: 新規事業→1回以上/年(令和7年度) | ・公共交通の利用に対する意識醸成へのモビリティマネジメントの推進・公共交通の利用促進のため運転免許証返納者支援制度の充実や周知 | • 実施、支援実績 | ・デマンド交通説明会の実施回数:2回 民生委員児委員協議会等でデマンド交通についての説明会を 行い啓発を図った。 | デマンド交通の説明会を実施しているが、更なる広報活動と 新たな取組みの検討が必要となる。 次年度も、過度に自動車に頼る状態から多彩な交通手段をか しこく利用する取組みであるモビリティマネジメントの推進を 図る。 | |
| 【目標5】 1 便あたりバス利用者数 • 宇都宮駅-石橋駅線: 11.9人/便(令和元年度)→13.0人/便 (令和7年度) • 石橋駅-真岡車庫線: 7.3人/便(令和元年度)→8.3人/便(令和7年度) • 自治医大線: 2.7人/便(令和元年度)→5.8人/便(令和7年度) デマンド交通収支率: 11.7%(令和元年度)→13.4%(令和7年度) | 利用実態を踏まえた運行ダイヤや運行ルートの調整 市及び交通事業者の関係機関で公共交通サービスの継続的な協議を行い市民の意見も聴取し協議に反映させる体制を整える デマンド車両の小型化の検討 | バス運行事業者から提供 されるデータ実施、実績データ | 1便あたりバス利用者数(令和4年度) •宇都宮駅-石橋駅線:16.4人/便 •石橋駅-真岡車庫線:11.7人/便 •自治医大線:2.0人/便 デマンド交通収支率:11.1% 新型コロナの影響を受けながらも、1便あたりのバス利用者が増加した。 令和5年4月からデマンド車両(5台中3台)にシルバーカー等の積載を可能とした。 | 励識を打つ。 | |
| 【目標6】 広域連携バスの利用者数 ・石橋・獨協医大線:2,733人/月(令和元年度) →2,800人/月(令和7年度) 交流人口: 223万人(令和元年度)→280万人(令和7年度) | ・広域連携バス運行に関する継続的な検討と利用促進 ・鉄道、路線バス、デマンド交通、タクシー等あらゆる交通モードの連携促進 | バス運行事業者から提供 されるデータ県公表観光客入込数 | 広域連携バスの利用者数 ・石橋-獨協医大線:2,516人/月 交流人口:219万人(令和4年度) 新型コロナの影響を受けながらも、広域連携バス利用者数・交流人口ともに増加した。 | 広域連携バスは令和4年4月から、関東自動車(株)による本格運行に移行した。 コロナが5類に移行したこともあり利用者は回復傾向にあるが、他の公共交通との連携や運行経路など、引き続き関係者間において利用促進策の検討が必要となる。 | |

(記載に当たっての留意事項)

- 本様式中、表題の「(〇年〇月~〇年〇月)」の部分には、評価等の対象となる期間を記入してください。
- 毎年度の評価になじまないような目標や、数年おきの評価を予定している目標については、「備考」の欄にその旨を明記の上、「目標」及び「備考」の欄以外は「一」と記載して下さい。
- 一つの目標と複数の取組が対応している場合や、複数の目標と一つの取組が対応している場合には、適宜欄を修正の上、記載を行ってください。
- 月ごとの利用者数の推移等の詳細データや、地域公共交通計画の評価等に係る協議会における議論の結果(議事録等)等の関連資料がある場合には、併せて添付して下さい。
- 地方公共団体・協議会等において独自に作成している評価等の様式が既にある場合や、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価を行った報告様式がある場合には、参考資料として添付して下さい。